

平成30年度 岸和田市貝塚市清掃施設組合議会

議員視察報告

視察場所 三重中央開発株式会社 三重リサイクルセンター

視察日時 平成30年11月9日（金）

参加者 米田貴志 議長・田中学 副議長・牛尾治朗 議員・川岸貞利 議員・阪口勇 議員
谷口美保子 議員・真利一朗 議員・井舎英生 議員・井上源次 議員・河合馨 議員
鳥居宏次 議員・中井良介 議員・前田将臣 議員

視察目的 全国から災害廃棄物の受入・処理実績のある災害廃棄物最終処分搬入施設にて、近年頻発している自然災害に備え、官民が連携した災害廃棄物処理協定の締結を視野に入れた災害廃棄物処理事業についての視察

視察内容 施設視察及び業務内容調査

[業務内容に関する主な調査事項]

実施日	施設名	所在地	能力・規模等		竣工
平成30年 11月9日	三重中央開発(株) 三重リサイクルセンター	三重県伊賀市	処分場 7ha	埋立容量 617万 ^m ₃	H元年3月

<三重中央開発株式会社 三重リサイクルセンター>

岸和田市貝塚市清掃施設組合、岸和田市、貝塚市の3者で「災害廃棄物処理に関する協定」の検討をしている大栄環境グループは、1995年の阪神淡路大震災以降、国内で起こった大災害での災害廃棄物の処理実績がある。平成30年10月時点で、全国31市町村との「災害廃棄物処理に関する協定」を結んでおり、地震や風水害等の自然災害発生時には、培ったノウハウで業務実施計画策定援助から災害廃棄物の処理を行うサポートを行い、災害廃棄物の運搬においては、容積32.3^m₃、最大積載重量16トンの天蓋脱着可能で堅牢なコンテナを810基保有し、限られた車両でも大量輸送が可能で、陸路が渋滞・寸断されていても輸送可能な海上輸送も確保し、適正かつ円滑・迅速に災害廃棄物を処理する能力を備えたグループである。

そのグループの災害廃棄物受入施設の一部である、三重中央開発株式会社三重リサイクルセンターは、年々強化される各種リサイクル法に対応し、フロンの破壊も可能な焼却施設では処理時に発生する熱エネルギーの温熱利用や発電等、処理と同時にエネルギーも生成し有効活用を行い、また、プラスチックリサイクル施設、コンポスト工場など、多様な再資源施設においても資源循環システムを構築し、高度な次元での高い再資源化が行われている。

災害の処理実績としては、阪神淡路大震災に始まり、広島県の西日本豪雨など、西日本における台風等や関東・東北豪雨災害の自然災害時の災害廃棄物の処理実績があり、管理型最終処分場においては埋立容量を600万^m₃以上確保された施設である。

以上、大栄環境グループは、災害廃棄物の運搬、分別、中間処理及び最終処分までを一貫して行う能力を擁する希少な企業であることから、災害時における被災状況の早期復旧のためにも、当グループとの「災害廃棄物処理に関する協定」の早急な締結が望ましいと考えるものである。